

2011年8月8日(月)

学力の大幅向上のために、「自覚」をもって「勉強の仕方」を工夫し、
毎日「長時間」勉強をし続けよう

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：学力を、学校の成績と偏差値を、この夏の勉強で大幅に上げたいのですが、ポイントをまとめて教えて下さい。

A：(林明夫：以下省略)私は、「教育の成果」を決定する要因として、「本人の自覚」と「勉強の方法」、そして「勉強時間」が大事と考えます。

Q：「教育の成果」を上げるには、どうしたらよいのですか。

A：今まで通りにやっていたのでは、同じような結果しか出ません。結果を大幅によくしたいのであれば、「次の3点」について考え直し、「やり方」を変える以外にありません。「自覚をもって勉強すること」、「勉強の仕方を工夫すること」、「勉強時間を大幅に増やすこと」、この3点です。

Q：「自覚をもって勉強する」とは何ですか。

A：(1)もし皆様が、来年私立中学校入試や中高一貫校入試を受験する小学6年生、来年高校入試を受験する中学3年生、来年大学入試を受験する高校3年生でしたら、「受験生としての自覚をもって勉強する」ことです。

(2)「自覚をもって勉強する」ために一番よい方法は、「自分は 〇〇 という学校に合格する」と毎日自分に言い聞かせることです。紙に一日何回も「〇〇 合格」と毎日書き続けて、受験生としての自覚を深めて下さいね。「〇〇 に合格」しようと自覚し、念じると、自分の中にエネルギーが湧いてきます。受験勉強にターボ・エンジンがつきます。

(3)「〇〇 に合格」しようと自覚して勉強すると、ただ何となく机に向かうのに比べ10倍ぐらい熱心になりますよ。

Q：受験学年以外はどうしたらよいのですか。

A：(1)受験学年以外の塾生の皆様も、「〇〇 合格」と進学したい学校の名前を紙に毎日何回も書き続けて下さい。

(2)「私は脳外科医になる」、「私は外交官になる」、「私は原子力技術者になる」、「私は森林を守る」、「私は弁護士になる」、「私は海外で活躍をする」、「私は学校の先生になる」などと、具体的な職業名や、やりたいことを紙に毎日何回も書き続けることも、「自覚をもって勉強する」ことになります。

Q：「自覚」をもつとどうなるのですか。

A：(1)「自覚をもって勉強」をスタートすると、どんなに激しい勉強をしても苦しいことはありません。もっともっと勉強したくてたまらなくなります。

(2)勉強時間がどんどん長くなります。「眠る時間」と、食事やトイレ、入浴、清掃、軽い運動、昼寝など「生活に必要な時間」以外のすべての時間は、机に向かいたくなります。勉強したくなります。机に向かわなくても、時間を見つけ出して、立っていても勉強するようになります。

Q：そんなことがあるのですか。この世の中にそんな人がいるのですか。

A：「合格」、「になる」、「を成し遂げる」など、自分なりの目的(ゴール)をもって朝から晩まで勉強する人は、この世の中に山程います。今までにもいました。皆様は、そのような人々を知らないだけです。

Q：どこにいるのですか。

A：(1)我々の先輩の中にたくさんいます。

(2)例えば、慶應義塾の創始者の福沢諭吉先生は、どのように勉強したか。どこの学校の図書室にも、どこの公立図書館にもある福沢先生の自叙伝、つまり、御自分の一生を書き記した「福翁自伝」をお読みになると、よくわかります。緒方洪庵先生の開いた大坂(今の大阪)の「適塾」での福沢先生をはじめとする塾生の勉強のすさまじさは圧巻です。是非この夏、お読み下さい。「福翁自伝」は、やさしく書き直した本がかなり出ていますので、小学生でも十分読めます。中学3年生や高校3年生などの受験生は必ず読んで、自分自身を励まし、奮い立たせて下さいね。素晴らしい「自叙伝」です。

(3)福沢諭吉先生の「福翁自伝」以外にも、学校の図書室や公立の図書館にある歴史上有名な人の「自伝」や「自叙伝」は、「自覚をもって勉強する」ことを目指すすべての受験生に、受験学年以外の開倫塾のすべての塾生の皆様に役に立ちます。

(4)トロイの遺跡を発見したシュリーマンの「古代への情熱」や、内村鑑三先生の代表的3部作「余は如何にしてキリスト教徒になりしや」、「代表的日本人」、「後世への最大遺物、デンマルク国の話」は、是非お読み下さい。

(5)小学生のコーナーにある「自伝」や「自叙伝」を、中学生や高校生、大学生や大学院生、一度社会に出た人やリタイアした人が読んで役立ちます。人生とは何か、勉強し続ける意味とは何かを考えるのに、学年や学校、年齢は全く関係ありません。

(6)宇都宮市教育委員会の依頼で6月22日と7月6日の2日間、午前10時から正午まで、宇都宮市生涯学習センターで、社会人の皆様60名に対して「論語」の講義をさせて頂きました。孔子の生涯を振り返りながら、孔子の教えを伝える「論語」を読み進めるうちに、人間として大切なことは何か、なぜ勉強しなければならないかを深く考えさせられました。勉強は、勉強する意味や目的がはっきりすればするほど、もっともったいたくなるものです。私は、「論語」の講義の準備をし、また、お話をしながら、あまりにも勉強不足だ、自分は何もわかっていない、もっともっと勉強しなければと痛感しました。

(7)塾生の皆様は、「とりあえず」自分の行きたい学校に合格するために「合格」と紙に毎日書き続けて「自覚」を深めて下さい。

(8)高校3年生は来年春にはちょっと間に合わない方が多いと思いますが、「東京大学合格」、「東京工業大学合格」、「京都大学合格」、「慶應義塾大学合格」、「早稲田大学合格」、「ICU合格」などと紙に毎日書き続ければ、何年か後に必ず合格します。小学生や中学生、高校生の

うちから「になる」、「のために生きる」と紙に毎日書き続ければ、夢は必ず実現します。「ボーッ」と過ごしていたら、それらが実現することはまずないと考えます。

(9)「自己責任」、「自助努力」、「自分の人生は自分で切り開く」。そのための第一歩が、「自覚をもって勉強する」です。勉強は自分のためにするものですからね。

<御参考>福沢諭吉先生の「独立自尊」とは

(1)お話がここまで進んできましたので、福沢諭吉先生が唱えられた「^{どくりつじそん}独立自尊」とは何かについて、皆様とご一緒に考えていきたいと思えます。

(2)独立自尊についての次の考えは、私が慶應義塾大学法学部法律学科の学生であったときの法学部長で、後に塾長(普通の大学の学長にあたる人)になられた石川忠雄先生のものです。

『『独立自尊についての石川さんの解説ほど分かりやすく、ストンと胸に落ちるものはない。』

独立自尊とは第一に、人を頼りとしなないということだ。自分で考え、自分で判断し、自分で実行できる人、そうなることが独立自尊の人になるということである。

第二に、自分で考え、自分が実行したことなのだから、その結果については自分が責任を負うということである。世の中が悪いからこうなったという人がいるが、第一義的には、自分に責任があるのだ、その責任を負い得る人間でなければならない。

第三は、結果についての責任を負うためには、強い心を持っていなければならない。本当の強い心とは、人を思いやる優しさに裏付けられた時に生まれる。

第四に、自らを尊敬すること、自らを^{いや}卑しめないことである。自分を卑しめないということは、他人も卑しめないということである。』

人はどう生きるべきなのか。誰もが理解できる平易な言葉で説かれている。

石川さんは、学生によくこう言ったという。

『自分の人生にとって何が良くて何が悪かったかは、死ぬ時になってみないと分からない。ただ、自分にとっての真実、それはその時を精一杯^{せいいつぱい}生きることだ。何が幸せで、何が不幸かを見通して生きるといっても、そんなことはできっこない。だから今を一生懸命生きることを考えなさい』

石川さんの末弟で慶應義塾大学名誉教授の石川明さんが回想している。

『兄は、自分にとっていちばん大事なのは家族だ、次に大事なのは慶應義塾だと最初から最後まで言っていました』

* 以上、橋本五郎著「範は歴史にあり」藤原書店 2010年1月30日刊 304～305ページより引用

(3)以上が、福沢諭吉先生の「独立自尊」の考え方を後の塾長である石川忠雄先生がやさしく説き直してくれたものです。それを、読売新聞の論説委員の橋本五郎さんが本に書いてくれました。人間は、自分自身が独立して、責任をもって行動してはじめて、自分自身を尊ぶことができる。自分自身を尊んではじめて、他人を尊ぶことができる。「独立自尊」とはこの

ような考えではないかと、私はいろいろな先生方からの教えを受けて考えています。皆様はどうお考えになりますか。

Q : 「自覚をもって勉強する」という意味がよくわかりました。「自覚をもって勉強する」ようになればなるほど、勉強する目的がはっきりしますから、「勉強時間が長くなる」こともわかりました。

それでは、最後に残った「勉強の仕方を工夫する」にはどうしたらよいか教えて下さい。

A : (1)それは素晴らしい質問ですね。(It is a very good question!!)まずは、自覚をもち勉強の目的をはっきりする。次に、その目的を自分の力で成し遂げる・達成するために勉強時間をどんどん長くする。ここまでは O.K.だとしたら、最後に残る課題は「効果の上がる勉強方法」となります。

(2)私は、学習を 3 段階に分けるとわかりやすいと考えます。まず、「うんなるほど」と「よくわかる」つまり「理解」する段階。次に、よく「理解」したことをスミからスミまで身につける「定着」の段階。最後は、「理解」し「定着」したことを用いて「学校での成績を向上させる」、「希望する試験に合格する」、「世の中で用いる」ことができる、つまり「応用」の段階。

(3)このように、学習を「理解」、「定着」、「応用」の 3 つの段階に分け、それぞれにふさわしい勉強の方法を工夫すると、効果の上がる勉強ができると考えました。

(4)その 1 つ 1 つの内容は、今回の「2011 年夏塾長特別講義」シリーズの中でかなり詳しくお話させて頂きましたので、よくわからない方は、何回も繰り返して私の文章をお読み下さい。

(5)開倫塾の先生方もこの「学習の三段階理論」を塾生の皆様や保護者の皆様に何回も繰り返して御説明させて頂いていると思いますので、開倫塾の先生方の説明を思い出しながら、私の今回の塾長特別講義の内容をお読み下さい。

(6)近日中(8 月中)に、私が CRT ラジオ栃木放送で今年の 1 月 1 日から 3 回お話した内容に大幅な加筆をしたものをお配りいたしますので、この「2011 年夏塾長特別講義(1)~(15)」とともに、是非ご熟読下さい。

(7)開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の「塾長林明夫」のコーナーに、「学習の三段階理論」についての私の文章がかなり掲載されていますので、是非御覧下さい。同じような内容ですが、「学習の三段階理論」も少しずつ「進化」していることがおわかりになると思います。

(8)「勉強の仕方」がわからずに困っている方が多いと聞いて、それならばと決意してまとめ始め、塾生の皆様、保護者の皆様、教職員の皆様にまずは御覧頂いた後、私が書いたもののほとんどすべてをホームページで公開させて頂いています。世の中で少しでもお役に立てて頂ければ、こんな幸せなことはないと考えるからです。

(9)毎週 2 ~ 3 万人の方々がお聞き下さっている CRT ラジオ栃木放送の「効果の上がる学習方法」をお伝えする世界で唯一の番組である「開倫塾の時間」も、このような考えで 25 年間ほぼ一人で放送しています。

Q : なるほど。塾長は、まさに「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心)」に「学習の三段階理論」を塾生だけでなく、保護者、地域社会の皆さん、教職員の皆さんに伝え続けているんですね。最後に一言お願いします。

A : (1) このように学力を飛躍的に高めるためには、「本人が自覚」をもって、「勉強方法」を工夫しながら、「長時間」勉強することが大切です。

(2) 学力の高い人に共通して言えることは、
「読書による思慮深さ」を身につけていること、
「学び方を学ぶ能力」を身につけていること、つまり「効果の上がる勉強の仕方を身につけていること、
この2つであると言われていています。(OECD の PISA 調査の結果)

(3) 新聞を読むことを含めた「読書」と、「勉強の仕方」を身につけることの大切さをお伝えして、今日のお話を終わりたいと思います。

本日も長い文章をお読み下さってありがとうございます。
では、今日はこの辺で。

以上